



▲上空から見る水口岡山城跡と城下町



▲主郭部の北面に残る石垣

# 豊臣秀吉の天下統一拠点 水口岡山城跡が 国指定史跡に

文化庁の文化審議会は、このほど国の史跡指定についての答申を出し、水口町にある「水口岡山城跡」が新規で国史跡に指定されることが決まりました。城跡の調査では当時の石垣が見つかり、多くの瓦も出土し、豊臣政権の拠点としての姿が明らかになってきました。

## 明らかにしつつある城の姿

史跡指定に向けた調査によって城の中枢部の姿が明らかになってきました。

主郭部（通称「本丸」）の両端には構造が異なる櫓台があり、そこにあった瓦葺建物に使われた瓦も異なることが判明しました。また、東櫓台の周辺では大溝城（高島市）から転用された瓦も多数出土しました。また、主郭部の周囲には石垣がめぐっていたこともわかりました。



▲大溝城から転用された瓦



▲東櫓台から出土した揚羽蝶文鬼瓦

主となり、豊臣政権の拠点城郭として機能します。しかし、関ヶ原の戦いの後、徳川幕府によって廃城とされ、江戸時代には水口藩の御用林となりました。現在は通称「城山」と呼ばれ、市民に親しまれており、山中に残る石垣などの遺構から当時の面影が偲べれます。

**豊臣政権の拠点城郭 「水口岡山城」**  
水口岡山城は、天正十三年（一五八五年）、豊臣秀吉の命によって築城され、東海道を眼下に見据える立地から、秀吉の天下統一における東国制覇の足掛かりの城と位置づけられました。その後、「五奉行」に名を連ねる増田長盛・長束正家が城

## 市内で4つ目の国史跡へ

現在の水口地域の基盤は、水口岡山城の築城によって整備され、その後、江戸時代の水口宿として栄え、現在に至ります。まさに、水口岡山城跡は地域のシンボルです。そのような城跡が紫香楽宮跡・垂

水斎王頓宮・甲賀郡中惣遺跡群に次いで、4つ目の国史跡に指定されます。豊臣政権を支えた拠点としての歴史的背景に加え、石垣や堀切などの城の遺構が良好に残ることが高く評価されました。これによって、城跡は将来にわたって保存されることとなります。

## 市のランドマークとして活用

水口岡山城跡については、史跡に指定された後、「保存活用計画」を策定します。これは、歴史的に重要な遺跡を将来にわたって適切に保護し、未来へ継承するために史跡の保存に関わる事項を定めるもので、今後の水口岡山城跡の活用の指針となるものです。計画を策定した後、石垣の修復など文化財としてふさわしい城跡の整備を行い、市のランドマークとしてまちづくりにも活用できるような事業を進める予定です。

## よみがえれ水口岡山城

市の歴史資産である水口岡山城を活用した取り組みが、一般社団法人水口岡山城の会をはじめとした各種団体により行われています。古城山山頂でバルーンによる模擬天守閣の



▲城山にそびえるバルーン水口岡山城

**■国史跡とは**  
史跡とは、歴史上または学術上価値の高いものを指します。文化財には、「有形文化財」、「無形文化財」等の区分がありますが、これらの中で史跡は名勝や天然記念物と同じ分類の「記念物」に含まれています。この史跡の中でも、特に重要で保護の必要なのが国史跡に指定されます。